

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを とともに生きよう感謝の心で
 ○進んで学び、進んで考え、進んで活用する子を育てます(知)
 ○感謝の気持ちと思いやりで心をつなぐ子を育てます(徳)
 ○自分やみんなの命や体を大切にすることを育てます(体)
 ○公共心や規範意識を大切に、社会の役に立とうとする子を育てます(公)
 ○コミュニケーション能力を高め、視野を広げていける子を育てます(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<認め合う力>
 <言語活用能力>
 <問題発見・課題解決>

具体化した資質・能力

進んであいさつする態度	自分らしさを見つける力
自分の思いや考えを相手に伝える力	問題を発見する力

中期取組目標

○子どもたちの対話的な学びを通して、自分の思いや考えを表現できる子どもを育てます。
 ・1年目は学習の中で自分らしさを見つけられる授業づくりを推進します。
 ・2年目は子どもたちが問題を発見し、自分の思いや考えを表現する力を育てます。
 ・3年目は表現することで自分の考えを深めることができるようになります。
 ○まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
 ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。

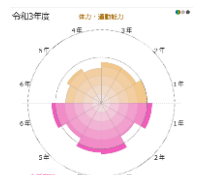


健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
体力向上 健康安全教育	①年間を通して、縄跳びなどの運動に取り組み、楽しく継続的に体を動かす習慣を身につける。②体育の学習では、子どもたちが関わり合い高めあいながら、個々の運動能力を向上できるような指導法や教材、場の設定などの工夫をする。③より良い睡眠を得るため、メディアとの付き合い方や外遊びについて考える。
担当	保健安全部・体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態
 ○横浜市体力・運動能力調査の体力調査では、コロナ前には横浜市の平均を超える種目・平均に近い種目が多かったが、令和3年度は横浜市の平均値を超える結果が出た種目はほとんどなかった。
 生活実態調査では、各学年の課題がばらばらで、生活習慣に対する各家庭の意識の差や子どもたちの意識の差が伺える。また、「運動をほとんど毎日している」と答えた児童は平均よりも少ないことが分かる。
 ○校内の実態調査等の結果を見ると、子どもたちの手洗いをしているという実感は増しているが、校内の手洗い場の石鹸の減りの実態をみると、高学年になるほどまだまだ手洗いへの意識が低いようである。
 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査から、「運動が好き」と答えた児童は95%に達することが分かる。
 ○給食では、学校全体で残食が極端に多いわけではないが、成長段階に見合った食事の量を調整する力が身につけていない。また、大豆や牛乳など体をつくるもととなる食材が苦手な児童が多い。



(2) これまでの学校の取組状況
 ○体育科では、コロナ禍で密を避けながら個人の高められるような授業づくりを実施してきた。
 ○一校一実践運動では、縄跳び週間を実施し、個々の体力向上を図った。
 ○感染症を予防するためには丁寧な手洗いが大切であることを、実験や動画を通じて児童に伝え、意識を高めた。

今年度の目標

○様々な運動に触れ合う機会を増やし、友だちと関わり合いながら楽しく運動に取り組み姿勢を養う。
 ○運動と睡眠のバランスの大切さを理解して、主体的に生活習慣を改善しようとする態度を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>○個々の運動能力の課題を知り、その解決に向かって取り組めるよう、スポーツテストや健康診断の結果を一人ひとりの児童が振り返る時間を設定する。 ○体育の授業では、個々の課題が明確になり、課題の向上に向かって学習に取り組めるよう学習カードにめあてとふりかえりをまとめられるようにしたり、友だちと学び合って高めあえる場の設定をしたりする。 ○運動を楽しみながら、自分の体力の向上を実感できるように、年度初めから一年を通して縄跳びに取り組み集会等を行う。運動の楽しさを知り、主体的に運動に取り組む資質を育てるために、運動委員を中心に休み時間の運動の仕方についても検討する。 ○家庭科や保健の学習で、栄養バランスのよい食事と運動の双方の大切さを意識できるよう、栄養士が連携して学習を行う。 ○学校保健委員会では、睡眠をしっかりとりことが免疫システムの活性化を促し毎日を健康に過ごすことにつながることを理解させ、児童が自ら睡眠や運動について考え実践できる力を育てる。 ○保健の学習では、担任と養護教諭が連携し、専門性を生かした授業に取り組む。</p>	<p>○体育の授業では、個々の課題が明確になり、課題の向上に向かって学習に取り組めるよう学習カードにめあてとふりかえりをまとめられるようにしたり、友だちと学び合って高めあえる場の設定をしたりする。 ○運動を楽しみながら、自分の体力の向上を実感できるように、年度初めから一年を通して縄跳びに取り組み集会等を行う。運動の楽しさを知り、主体的に運動に取り組む資質を育てるために、運動委員を中心に休み時間の運動の仕方についても検討する。 ○家庭科や保健の学習で、栄養バランスのよい食事と運動の双方の大切さを意識できるよう、栄養士が連携して学習を行う。 ○学校保健委員会では、早ね早起きを実践するには1日の生活の仕方を工夫することが必要であり、昼間に太陽の光を浴び体を動かすことが大切であるに気づかせ、実践につなげる。 ○保健の学習では、担任と養護教諭が連携し、専門性を生かした授業に取り組む。</p>